



## 立北の子どもたち、褒めていただきました！

先月、6年生が1泊2日の修学旅行に行ってきました。2日間を通じて時間をしっかり意識して行動することができた6年生、合言葉にしていた「ちょっとのがまん、ちょっとのやさしさ」もしっかり実践できたようです。沢山の学校を見ておられるホテルの方や帯同の写真屋さんから「立花北小は気持ちのよいお子さんばかりですね。」とほめていただき、とてもうれしい気持ちでした。



また、こんなことも。3年生が藻川へ自然体験に出かけて帰って来た時、学校へ一本の電話がかかってきました。市バスで3年生と一緒に来たというご婦人からでした。「一人の



女の子がお年寄りに席を譲りました。なかなか勇気のいることだと思います。ぜひ、ほめてあげてください。」というものでした。暑い日、目いっぱい活動した帰り道、とても疲れていたでしょう。すぐに3年生の教室に行って伝えると、他に何人もの子が声をかけていたとのことでした。



日ごろの学びが行動に表わせる立北の子どもたち、なんて素晴らしい子どもたちだと誇らしく思いました。

## 10月のテーマは、『勇気』そして『寛容』

さて、皆さんは『勇気』と聞いて、どんなことを思い浮かべますか。「失敗を恐れずに挑戦すること」や「ダメなことはダメだと言えること」も勇気なら、「過ちを正直に認めてあやまること」も立派な勇気です。では、子どもたちに『勇気』を育むため、私たち大人にはいったいどんなことができるでしょう。答えはきっとひとつではないのだと思いますが、私は『寛容』をあげたいと思います。「失敗」は子どもたちの持つ特権です。ところが、最近の大人たちは、人の失敗を許す「心のゆとり」が失われてきたような気がしてなりません。その昔、「こらー！」とその場で叱っても、謝りに行くと「かまへんかまへん、子どものすることや」「お母さんに迷惑かけたらあかんで！」と許してくださる、そんな温かな大人たちが沢山おられました。私も、しょっちゅう謝りに行った子どもでしたが、帰り道、いつも母から言われた言葉があります。「よかったなあ、これくらいで済んで。」「よかったなあ、許してもらえて。」「正直に謝りに行って、よかったなあ。」今でも思い出します。

先日、チャイムを押して逃げる…いわゆるピンポンダッシュで保護者、担任と謝りに行った子どもがいました。後にお会いした地域の方は「ピンポンして逃げる時、車にひかれへんか、それが心配なんよ」と話してくださいました。子どもにとって、緊張しながら謝りに行く経験を通して、親や先生が頭を下げる姿を見るのが何よりも薬になります。そして、許してもらえた経験で、人を許すことの大切さも学びます。私は、立北の校区には、子どもたちを温かく見守ってくださる『寛容さ』が今も残っていることに感動しました。

自分自身が親になったとき、地域の方から教えていただいたことがあります。『親の役割』は、①ちゃんと食べさせること ②ちゃんと夜寝させること そして、③何かあったとき頭を下げる…この3つだそうです。子どもは失敗する生き物。子どものうちにいっぱい挑戦し、失敗も経験させてやりたいものです。そして、子どもがよくないことをしたときにはしっかり叱り、子どもが勇気をもって失敗を認めたときには、思い切りえらかったと褒めてやれる…そんな環境を学校と保護者と地域の皆さんでつくっていったら素敵だなと思います。

10月のテーマは、子どもも大人も『勇気』と『寛容』 ご協力をよろしく願います。